



入学アルバムより矢沢先生



卒業アルバムより大槻先生

5組担任

矢沢 博先生(1・2年)
大槻 文仁先生(3年)の
思い出



オーボエを演奏する筆者



卒業アルバムより

増澤 幸和

・・・矢沢先生の思い出

- 5組担任の矢沢博先生はシャモ(軍鶏)と呼ばれていた。

2年になった数学の授業は理系のコースに入ったため、他のクラスの見知らぬ生徒が多くを占め緊張。そんな最初の授業で、宿題を一人ずつ黒板の前に出て解答を書くことになった。ところがどうしても解らない問題が一つあり、これに当たらなければいいなと思っていたが、運悪くそこに当たってしまった。

黒板の前でモジモジしている私に「何で解らないのよ! 立ってろ!」一撃が来た。

もっとも、先生に言わせると「お前さんたちのやっているのは算数よ!」私は恥ずかしくて、先生と視線が合うと、いつも下を見るようになった。

- 先生はその後、長野高校に転校され、私も工学部(長野)に進学したのでご自宅を訪ねた。

「よく来たな、いけるだろ」返事も言わないうちにコップにウィスキーが注がれていた。

・・・大槻先生の思い出

- 私の担任はどういうわけか、数学の先生が続いた。

矢沢先生の後任で新しくみえられた大槻文仁先生からは矢沢先生とは対照的に冷静で穏やかな印象を受けた。当時、受験で高望みをしていた私に対し「受けるなどとは言いませんがね!」この言葉は今も頭にこびりついている。

- 穏やかな先生が珍しく激することがあった。それは「文仁」というお名前前で、秋篠宮親王がこの名称を引き継いだ時、「俺の方が先だ」とむきになっておられたのが不思議だった。